

離床センサー Vol.120 2019.8

現場レポート!



離床センサーをお使いの現場からレポートいたします!

豊郷病院様の導入例とその効果について

【使用センサー】	コールマット・コードレス	×18台	／	サイドコール・コードレス	×14台
	タッチコール・コードレス	×5台	／	ベッドコール・コードレス	×5台
	座コール・メロディタイプ	×6台	／	徘徊ナビ名札・ポケット	×2台 他

Q. 離床センサーの使用基準を教えてください。

医療安全マニュアルの中に、各種の離床センサーの特徴が記載されており、患者さん合ったセンサーを選択できるようにしています。

それと共に、アセスメントシートの評価、ご家族からの情報、転倒歴などの情報と、日々のカンファレンスで患者様の状況を把握しながらセンサーの種類を変更しています。

転倒・転落は看護師だけでは防ぐことができない事例でもありますので、病院全体の重要課題として取り組んでいます。



【患者様が危険度Ⅲ評価の場合に表示】

Q. 離床センサー導入と同時に効果のある工夫があれば教えてください。

危険度Ⅱ以上の評価の患者様のベッドサイドには誰が見ても分かるようにサイン表示をしています。

「危険度Ⅲ」には赤色てんとうむし、「危険度Ⅱ」には黄色てんとうむしの表示をしたり、車いすに ADL 状況を知らせるカードを取り付けたりして全員で転倒・転落への取り組みを行っています。

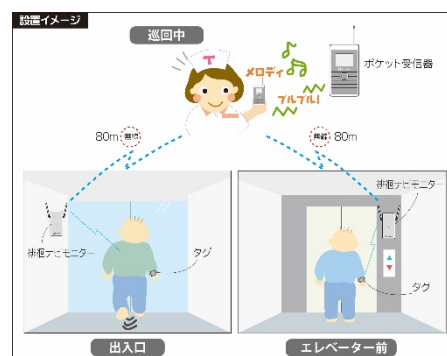


【患者様が危険度Ⅱ評価の場合に表示】

Q. 効果のある対策があれば教えてください。

転倒・転落事故の発生率は近年横ばいの状態で、日本病院会指標測定の前平均値付近の数値で推移しています。

センサー類で効果が表れているのは、「徘徊ナビ・名札」です。高次脳機能障害の患者様を拘束・抑制することなく、見守りながら離院を防ぐことが出来ているので、スタッフ・患者様共に安心感が生まれました。



【徘徊ナビ・設置イメージ】